

(共同記者会見資料)

平成27年1月19日

京 都 市

〔文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課
文化市民局元離宮二条城事務所
アートアクアリウム城実行委員会〕

〔株式会社エイチアイディー・インターアクティカ
朝日放送株式会社〕

世界遺産・二条城における「アートアクアリウム城～京都・金魚の艶～」について

世界遺産「古都京都の文化財」の登録20周年を記念し、世界遺産・二条城の本格的なMICE利用として昨年開催した「アートアクアリウム城」について、開催状況、今後の方向性等についてお知らせします。

1 「アートアクアリウム城」の開催状況

(1) 会期・開催時間

平成26年10月24日(金)～12月14日(日) 52日間

17:00～22:00(最終入場21:30)

※10月24日(金)のみ一般入場は19:00～

(2) 会場

元離宮二条城 二の丸御殿中庭・台所前庭・台所

(3) 入場者数

総入場者数：285,509人(無料入場者を含む)

1日平均入場者数：5,490人(無料入場者を含む)

最多入場日：11月23日(日)11,977人(無料入場者を含む)

(4) 展示作品

「水中四季絵巻」「古都紅葉ふぶき」「アンドンリウム」

「アースアクアリウム・ジャポニズム」「新江戸金魚飾」「金魚品評」「花魁」

「ボンボリウム」「プリズリウムNo.12」「プリズリウムNo.18」

「リフレクトリウム」「ギヤマンリウム」「パラドックスリウム」「キモノリウム」

着物(二十四節気七十二候のうち十一の候をモチーフとした)

(5) イベント

アートアクアリウム城 特別公演 金魚の舞(毎日18時から実施)

(6) 参画

きものアルチザン京都, 祇園・ない藤, 老松, 亀末廣, 大安, 香老舗松栄堂,

福寿園, 齊藤酒造, 佐々木酒造, 丹山酒造, 増田徳兵衛商店, 向井酒造,

エフェクトメイジ, カミハタ, キョーリン, バイコム, 弥富金魚漁業共同組合

2 「アートアクアリウム城」による京都の文化遺産への貢献

主催者代表・木村英智プロデューサーの意向で、入場料収入約3億6,700万円の10%を文化遺産保存・継承活動支援に寄付。

(1) 世界遺産・二条城の本格修理事業への支援（8%相当を予定）

徳川家康による築城以来となる本格修理（工期20年、総事業費100億円）を平成23年度から進めており、これに充てる財源として、本市が平成22年度から開始した「世界遺産・二条城一口城主募金」に寄付

＊これまでの本格修理事業実績

- ・ 23～25年度 唐門，築地の修理完了（経費約2億7千万円）
- ・ 26～28年度 東大手門の修理工事（29年3月末竣工予定）（経費約5億円）

＊「世界遺産・二条城一口城主募金」の実績（26年12月末）

累計 1億7,700万円

(2) 「世界文化遺産」地域連携会議の活動支援（1%相当を予定）

「世界文化遺産」地域連携会議（平成23年6月発足，会長：門川大作京都市長）は、日本国内の世界文化遺産を有する市町村長，地域づくり・観光・地域連携などに関わる専門家や地域リーダー，観光関係者，行政スタッフ等を構成メンバーとし，文化財の永続的な保全やそれを前提とした観光と地域連携のあり方の検討，各種共同事業実現について，積極的な情報交換を行っている。年1回総会を開催し，省庁等へも世界遺産の保全活用に係る施策の一体化，連携協力を求める要望活動を行っている。

昨年10月24日には，世界遺産「古都京都の文化財」登録20周年を記念し，全国の世界遺産関係者が一堂に会する「世界遺産サミット」を初めて開催し，出席した市町村長等はアートアクアリウム城のテープカットにも参加した。

当会議の活動は，日本の世界文化遺産保全において大変有意義であり，こうした文化財の保全・活用に寄与するための活動に対し，寄付されるものである。

(3) 祇園祭「鷹山」の復興支援（1%相当を予定）

昨年7月，休み山であった大船鉾が150年ぶりに巡行に復帰した祇園祭。後祭巡行も49年ぶりに復興し，ユネスコ無形文化遺産に登録される「京都祇園祭の山鉾行事」が元の姿に戻った歴史的な年であった。

「鷹山」は，曳山型の山で，大船の直前を巡行するくじ取らずの山であり，祇園祭には数少ない「からくり」を見せる山でもある。文政9年（1826）の巡行を最後に休み山となっている「鷹山」も大船鉾のように巡行復帰を目指す動きもある。

「鷹山」の保存会がある京都市中京区衣棚町に，京都における住まいの拠点を置き，祇園祭の魅力に共感している主催者・木村英智プロデューサーは，「鷹山」の復興に対して寄付をしたい意向を持っており，状況を見極めつつ，今後の活動に貢献していきたいと考えている。

3 来年度に向けて

平成27年10月23日～12月13日に開催予定。地域密着型の企画としての立ち位置を確立し，京都の新しい秋の風物詩として進めていきたい。本日の発表を持って，多くの来場者と地域産業を効果的に結び，双方の満足度を高める施策の構築を促したい。